

防火・防災チェックシート

たばこ

- たばこを吸いながら寝ることがある
- 吸い殻を水で完全に消火せず捨てている
- 灰皿に水を入れていない
- 灰皿に吸い殻がいっぱい溜まっている
- 吸い殻の周りに燃えやすい物がある



寝室・居室

- 住宅用火災警報器が未設置（点検・交換していない）
- 仏壇のローソクの周りに燃える物がある
- コンセントとプラグの間に埃が溜まっている
- 電気コードが家具の下敷きになっている
- 電気コードをたこ足配線で使用している



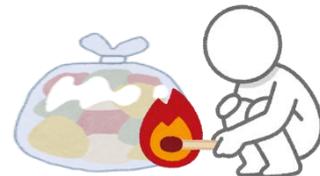
台所

- 調理中にその場を離れることがある
- グリル内に油かす等が溜まっている
- ガスのゴムホースに焦げ跡がある
- 安全装置のない調理器具を使用している
- こんろの周りに燃えやすい物を置いている



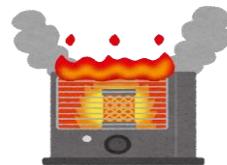
放火防止

- 家の周りに燃えやすい物を置いている
- 家の周りが暗い
- 門扉・車庫・物置を施錠していない
- 決められた時間、場所以外にごみを出している



ストーブ

- ストーブをつけたまま寝ている
- ストーブの近くで洗濯物を干している
- ストーブの周りに燃えやすい物を置いている
- 安全装置のないストーブを使用している



住宅内事故

- 床に新聞紙など滑りやすいものを置いている
- 階段の周りが暗い
- 喉に詰まりやすいものを小さく切らずに食べている
- 夏場、室内を涼しく保つことができていない
- 冬場、浴室等を暖めず、高温で入浴している



皆様のお宅を消防職員が訪問し、プロの視点から防火・防災に関するアドバイスをを行います。
ご心配なことがあれば、お住まいの区の消防署までご連絡を！

お住まいの区の消防署： 消防署 (06- -0119)



119番通報のメモ



安全な場所から通報してください!

① 落ち着いて119番



「火事です」



「救急です」

② 自宅の住所を伝える

大阪市

区



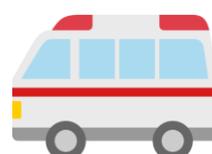
()号室

建物名

③ 状況や症状を伝える



何が
燃えているのか



誰が
どうしたのか

※係員がお聞きしますので、落ち着いて教えてください。



大阪市消防局
Osaka Municipal Fire Department

寝たばこを
やめるのも、
とめるのも、
愛情です。

大切なあの方に、
「寝たばこ火災に要注意！」
の声をかけを。

めぞん一刻

©高橋留美子/小学館

たばこ火災防止キャンペーン

ストップ!
寝たばこ

寝たばこ火災を防ぐ三カ条

たばこは、

- ① ふとんで吸わない
- ② 灰皿には水を入れて
- ③ 消えたかどうか絶対確認!



寝たばこ注意も対面希望の巻



**寝たばこ
火災を防ぐ三か条**

たばこは、

- ① ふとんで吸わない
- ② 灰皿には水を入れて
- ③ 消えたかどうか絶対確認！

です…。

あーそうそう、大丈夫。おぼえてますよ。

ストップ!
寝たばこ

消防署からのお知らせです

地震火災を防ぐポイント

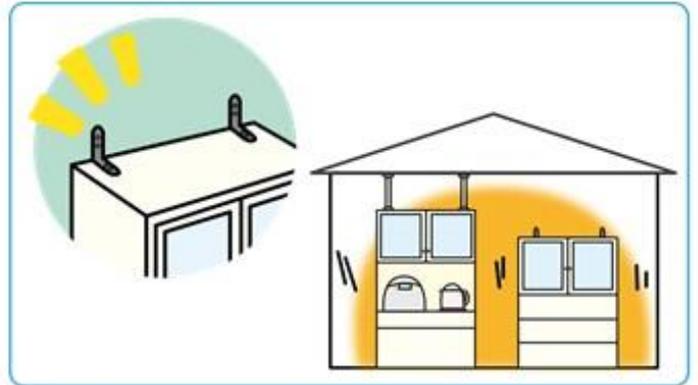
地震火災対策きちんと出来ていますか？

事前の対策

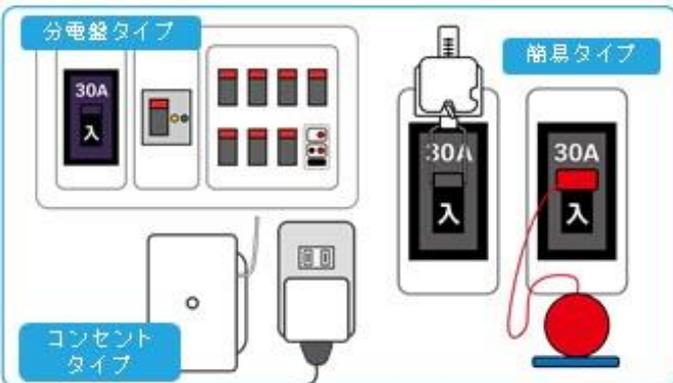
住まいの耐震性を確保しましょう



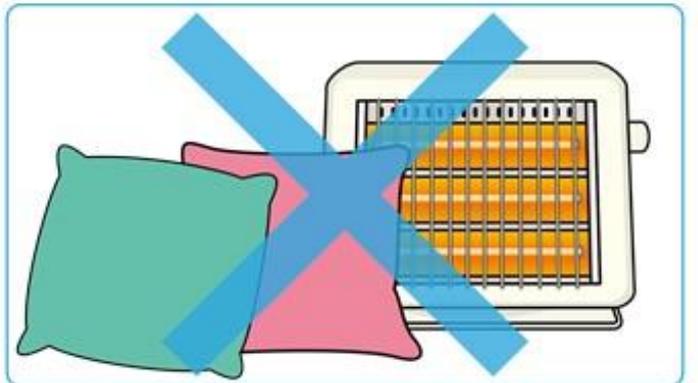
家具等の転倒防止対策（固定）を行いましょう



感震ブレーカーを設置しましょう



ストープ等の暖房機器の周辺は整理整頓し、可燃物を近くに置かないようにしましょう



住宅用消火器等を設置し使用方法について確認しましょう



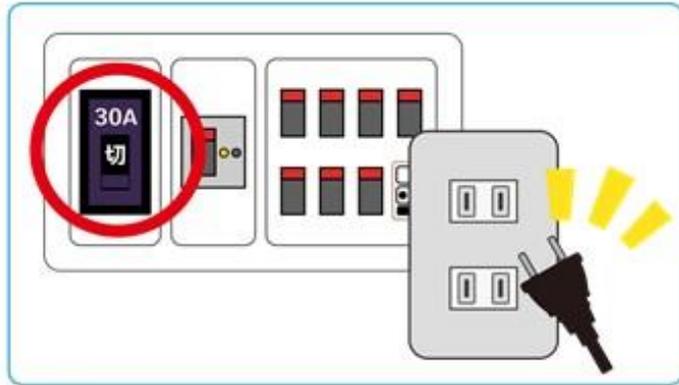
住宅用火災警報器を設置しましょう



※交換の際は連動型住宅用火災警報器などの付加的な機能を併せ持つ機種へ交換しましょう。
※設置場所については市町村条例で定められています。

地震直後の行動

停電中は電気器具のスイッチを切るとともに、電源プラグをコンセントから抜きましょう。避難するときはブレーカーを落としましょう。

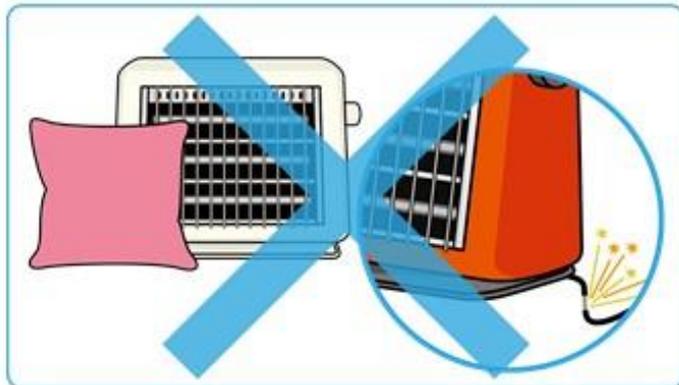


石油ストーブや石油ファンヒーターからの油漏れの有無を確認しましょう。

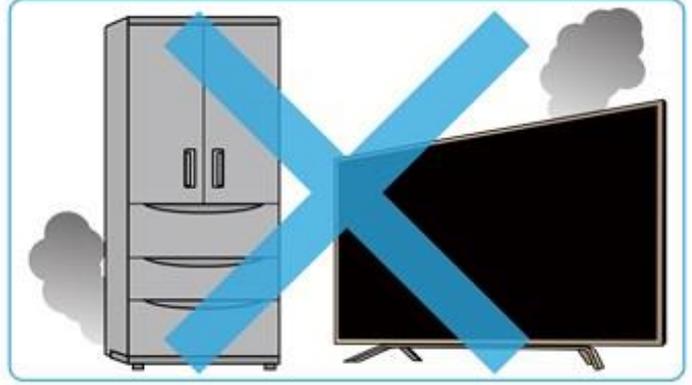


地震発生からしばらくして（電気やガスの復旧、避難からもどったら）

ガス機器、電気器具及び石油器具の使用を再開するときは、機器に破損がないこと、近くに燃えやすいものがないことを確認しましょう。



再通电後は、しばらく電気器具に異常がないか注意を払いましょう（煙、におい）。



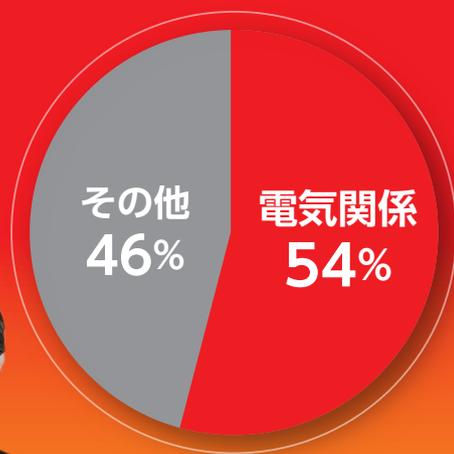
日頃からの対策

地域の防災訓練へ参加するなどし、発災時の対応要領の習熟を図りましょう。



お問い合わせ先

今、備えよう。 大規模地震時における 電気火災対策



地震による火災の過半数は
電気が原因です。



過去の大地震では建物の倒壊だけでなく、火災の被害が多く発生しています。

東日本大震災による火災では、上のグラフのとおり、原因の特定されたもののうち過半数は電気に起因したものでした。

<認証マーク・推奨マーク>

電気火災対策には感震ブレーカーが効果的です。

感震ブレーカーは震度5強相当の地震を感知して、電気を自動で遮断します。

感震ブレーカーには分電盤タイプ（内蔵型）、分電盤タイプ（後付型）、コンセントタイプ、簡易タイプがあります。

性能評価を受けた製品には、認証マークや推奨マークが表示されています。商品を選ぶときの参考にしましょう。

また、感震ブレーカーの設置には自治体によって補助制度もありますので、ホームページ等を確認し、問い合わせてみましょう。



分電盤タイプ（内蔵型）

分電盤に感震遮断機能が内蔵されています。地震が発生し、大きな揺れを感知すると、ブザー音がなります。夜間の避難などを考慮し、すぐには電気を遮断しない機能を持つ機種もありますが、その場合には感知して一定時間後、ブレーカーが落ち、電源を遮断します。設置には電気工事が必要です。



分電盤タイプ（後付型）

既設の分電盤に後から設置できる後付型です。設置には電気工事が必要となります。また、分電盤の形状や種類によって、取付けが可能なものと不可能なものがあるので確認が必要です。



コンセントタイプ

内蔵されたセンサーが地震を感知するとコンセントからの電気を遮断します。電気が遮断されるのはこのコンセントに接続された家電のみですので、特に出火の危険性の高い電熱器具が接続されているコンセントを中心に設置すると効果的です。避難用の照明や在宅用医療器具等、地震時においても電力供給が必要な機器への電力供給を継続することができます。コンセントタイプには差込型の他に埋込型もあります。



簡易タイプ

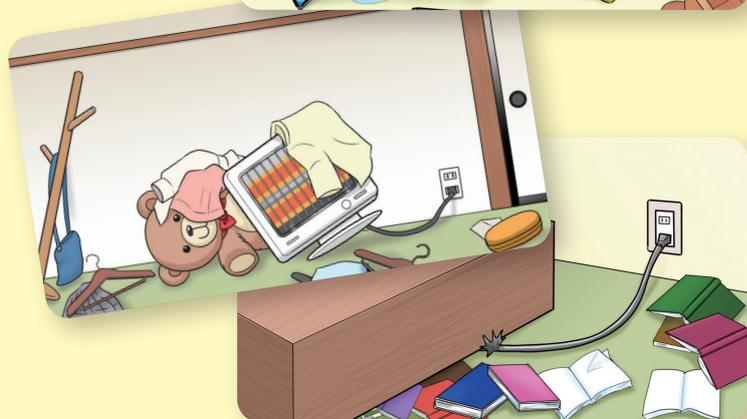
地震の振動で主幹ブレーカーをOFFに切り替えます。バネで動作するものや、おもりで動作するもの等があります。バネで動作するものは地震を感知すると、中のバネの力でバンドが作動し、物理的に主幹ブレーカーをOFFにします。おもりで動作するものは、地震の振動でおもりが落ち、つながったひもで主幹ブレーカーをOFFにします。



どうして電気から 火災が発生するのでしょうか。

地震が引き起こす電気火災とは、地震の揺れに伴う電気機器からの出火や、停電が復旧した時に発生する火災のことを言います。例えば以下の場合があります。

- 地震の揺れで電気ストーブが転倒したり、ストーブに落ちた洗濯物から出火する。
- 家具が転倒し、その下敷きで断線した電気コードがショートして出火する。
- 水槽が転倒し、水槽用のヒーターが燃える物に触れて出火する。



電気火災対策と合わせて取り組みましょう

建物の耐震化や家具の転倒防止に取り組む、暖房器具は耐震自動消火装置付のものにするといった対策や、自宅には住宅用火災警報器や消火器を備え、火が小さいうちは初期消火をするようにしましょう。

家具の転倒防止



消火器



耐震自動消火装置付



感震ブレーカー設置後は電気が止まっても困らないための対策を

感震ブレーカーが作動すると停電となります。夜間の避難に備えて、停電時に作動する足元灯や懐中電灯等の照明器具を常備し、照明を確保しましょう。また、自宅に医療用機器等を設置している場合は、停電に対処できるようにバックアップ電源を確保しましょう。



電気の使用を再開する際の注意点

揺れが収まった後に電気の使用を再開する際には、ガス漏れ等が発生していないことを十分に確認しましょう。機器の周囲に可燃物がないか、機器やコンセントに水がかかっていないかなど、建物内の電気製品の安全確認を行い、万一出火に備えて消火器等を準備した上で復電しましょう。また、復電後は、焦げたにおい等の火災の兆候がないか十分に注意し、異常を感じた場合は電気の使用を中止してください。

